



プリプレスのデベロッパ各社が グラフィックアートのワークフローを向上する ために PDF をアプリケーションに統合

【1997年4月28日】

Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社：米国カリフォルニア州サンノゼ) は、プリプレスのソリューションを開発する代表的なソフトウェアデベロッパ各社が、PDF (Portable Document Format) をグラフィックアートのワークフローに統合することを発表し、ニューヨークで先週開催された Seybold Conference において、さまざまな新しいアプリケーション製品のデモを行いました。

「完全なPDFワークフローとは究極的に『ドラッグ&ドロップ』処理を意味します。この新しいデジタルワークフローへの移行は、経済的な理由が原動力になっています。サービスプロバイダにとって、ドラッグ&ドロップによるプリンティングアーキテクチャは大きな利益をもたらします。実際のところ、私の売り上げの25%にあたる部分を彼らが節約できると考えます。」とプリンティングとパブリッシングテクノロジーのコンサルタント、Paul Beyer氏は述べました。

PDFの数多い利点を活用することによって、これらの新しいプリプレスアプリケーションは、より速く、より信頼性が高く、そしてより低コストで、より自動化されたプリプレスのワークフローを可能にします。

PDFファイルが『デジタルマスター』として使用可能になることにより、プリプレスのワークフローにおいて、下記の利点があげられます。

より速く、合理化された、より信頼性の高い出力。これは特に、Adobe PostScript 3™ と Adobe® PostScript® Extreme™ (アドビポストスクリプトエクストリーム) がPDFファイルを直接処理できることによりです。PDFはページごとに独立しているため、ひとつのデジタルマスターファイルから任意の順番にページを出力することが可能です。

Adobe Acrobat®は、PDFファイルに関してビルトインプレビューと基本的なプリフライト機能を提供します。これは、印刷のためにファイルを送信する前にエラーを発見できるということで、ドキュメントの作成時に重要です。その結果、作成者に戻される仕事の数や、出力現場においてファイルを出力できる状態にするために要する時間を劇的に減少することができます。

PDFの構造化されたファイルフォーマットとAcrobatの拡張性によって、アプリケーションソフトウェアに、より多くのプリプレスワークフロー用の機能を備えることができます。



PDF では、ひとつのファイルを、表示、配信、保管、編集、およびプリントの全ての場面で使用することができます。

PDF ファイルはサイズが小さいため、電子的な配信を合理化します。

「PDF を統合することによって、デベロッパ各社は、グラフィックアートのワークフローを刷新する製品を開発することができます。PDF が広く採用されることによって、プリプレス業界全体に大きな利益をもたらされるでしょう。」とアドビシステムズ社プリンティングシステムズディビジョン、プロダクションイメージング、マーケティングディレクターの Eric Bean は述べています。

4月22日よりニューヨークで開催された Seybold Conference では、以下の製品が展示されました。各製品は、それぞれPDF ワークフローの重要な側面を管理することを目的としています。

全体的な自動化とデータ管理

Luminous Technology Corporation は、PDF ワークフローのさまざまな側面をサポートするいくつかの製品を発表しました。Luminous OPEN™1.1 は、DTP アプリケーションまたはポストスクリプト言語ファイルからの PDF ファイルの作成、Acrobat Exchange™ と PrePrint Pro を使用した PDF ファイルの分解、Web 掲載用の PDF ファイルの最適化、そして Canto Cumulus と Luminous Media Manager™ などのデータベースへの PDF ファイルのカタログ情報作成など、PDF 制作のワークフローを自動化します。Luminous Media Manager において、PDF I-Piece は、データベース内で PDF ファイルをカタログ(目録作成)、プレビュー、およびナビゲートする機能を付加します。

Cascade Systems Inc. は、PDF ファイルを含むデジタルコンテンツの保管と抽出を行う MediaSphere™ を展示いたしました。これは、PDF ファイルのカタログ情報作成、管理、プレビューならびに用途変更などを可能にします。

Extensis Corporation の Portfolio 3.0 (旧 Adobe Fetch) は、代表的なメディア管理アプリケーションの総合的なクロスプラットフォームバージョンです。Portfolio には、ファイル変換プログラムが組み込まれており、PDF ファイルのサムネイルを作成し、プレビューすることができます。Extensis は、拡大されたプリプレスのソリューションの製品群へ PDF を統合する計画も明らかにしています。

OneVision の DigiServer™ は、PDF またはポストスクリプト言語フォーマットでのデジタルジョブの自動処理を実現します。ホットフォルダを、希望する出力フォーマットや出力デバイス用に構成することができます。これらの機能は、PDF ワークフローへのシームレスな統合を可能にします。



デザイン

Group Logic の Imagexpo® v2.0 は、PDF ファイルのリモートソフトブルーフィングとメモ入力のためのツールによって、制作作業におけるレビュープロセスの効率を向上します。その結果、PDF ワークフローの利点がさらに向上します。

Digital Image Bank Service (dibs) の QueuePic™ は、PDF と JPEG フォーマットの高品位の消費者向け製品のイメージが5万種類以上含まれるdibsイメージデータベースへ、インターネットを介して接続する検索専用プログラムです。ドキュメントの作成者は、低解像度のデザインとプルーフイメージへ容易にアクセスし、出力現場では、インターネット経由で、また新聞の場合は AP/Adsend ネットワークを通じて、高解像度のイメージを取得することが可能です。

プリフライト

PDF ファイルをプリプレスサイトで受け取った後、Markzware の FlightCheck を使用することによって、それが出力用のプリンタ、または表示用のコンピュータ画面、あるいは掲載用の Web であるかにかかわらず、最終目的地へファイルを送信する際に PDF ファイルに出力時の問題となる箇所があるかどうかを検出することができます。FlightCheck は、不適切な色やフォントの使用、不適切なイメージ解像度またはファイルタイプなどの問題を検出します。

編集

PDF ファイルの内容を変更するために、EnFocus Software NV は、テキスト、グラフィックス、およびオブジェクトの属性を含む PDF ページコンテンツをビジュアルに編集するための Acrobat Exchange™ プラグイン、Pitstop™ を提供します。OneVision の DigiScript は、完全な PDF ファイル編集に対応する各種 WYSIWYG (What You See Is What You Get) ツールから構成されるインタラクティブなツールです。DigiScript を使用することによって、PDF フォーマットで広告を受け取る新聞社などで、PDF またはポストスクリプト言語ファイルを受け取った後、ファイルを開いてインタラクティブに、テキスト、カラー、イメージ、ラインアート、および分解などの制作時のパラメータを編集することができます。

面付け

Luminous PressWise® の次期バージョンは PDF をネイティブにサポートするため、Adobe PostScript 3 プリンティングシステムにおいて、全面的に PDF に基づくプリプレスワークフローの利点を享受することができます。1997 年第 3 四半期に発表が予想される新しい PressWise には、PDF のページを任意の PressWise 面付け処理に追加し、また、Adobe PostScript Extreme™ のジョブチケットを作成する機能が装備されます。PressWise は、PDF ワークフローが提供する生産時の利点を享受するために重要な製品となります。



DK&A, Inc. は、1997年第3四半期初頭までに、同社のTempus®統合プリプレスプラグインによって、同社の面付け製品であるINposition® 2.0でPDFの完全なサポートを提供します。これにより、Adobe PageMaker®とQuarkXPress®ファイルの面付けが可能となり、PDF、Adobe PostScript、EPS、TIFF、およびPICTの各ファイルも完全にサポートします。

印刷

Adobe PostScript プリンティングシステムへ出力する場合、スクリーニング、分解、位置の微調整などのコントロールを、LantanaのCrackerjack™を使用して定義することができます。Acrobat Exchange 対応プラグインであるCrackerjackは、PDFドキュメント用のプロフェッショナル仕様のプリンティングツールです。さらに、Adobe PostScript プリプレス機器のベンダーによって使用されているアドビシステムズ社のColorBusrt ASICを搭載したアクセラレータカードである、LantanaのXLR8 TM/C3は、レンダリング処理を高速化し、PDFドキュメントから作成されたAdobe PostScriptファイルの出力を向上します。

Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社)は、1982年に創設され、米カリフォルニア州サンノゼの本社を拠点に活動を展開しています。アドビは電子メディアによる書類の作成・表示・印刷・伝送などを実現するソフトウェアやコンピュータ技術の研究開発を行っています。自社技術をコンピュータ機器や印刷器材の大手メーカーへライセンス供与するほか、コンピュータで利用可能なフォントやアプリケーションソフトウェアの開発も行い、ヨーロッパと環太平洋地域の拠点からの販売網を通じて世界各地に製品を提供しています。アドビシステムズ株式会社は、1989年に設立されて以来、世界中の製品メーカーとの協力により、日本市場向けポストスクリプト製品の開発に携わると共に、Adobe Illustrator®、Adobe Photoshop®、Adobe PageMaker、Adobe Acrobatをはじめとする各種アプリケーションや書体の開発、販売、サポートを行っています。